

意見の概要と市の考え方 千葉市新基本計画に関する政策評価(第2次中間評価)(案)に関するパブリックコメント手続き

番号	意見の概要	市の考え方	案の修正
1	<p>施策の柱2-1 2(1)</p> <p>P25 (1)健康づくりの推進(ア)① ・食生活改善推進員について 人数を増やそうとしているが、この人たちが増えることで、何が向上するのかわからない。 なり手の高齢化も問題だが、推進委員が活躍できる場合は、平日の講習会だとすると、そこに参加できる対象者自体が少ないのではないか。 女性も男性も、外で働く時代であり、改善委員の指導を受けられる状況ではないと推測している。</p>	<p>食生活改善推進員による情報発信等の活動は、食を通じた地域の健康づくりに大きく寄与するものと考えております。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
2	<p>特定健診を受ける人を増やすには、職場で受けられることを保障することの方が優先なのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、職場で特定健診を受診できれば受診率は高まると考えます。 一方で、一般的に職場で実施される健診は労働安全衛生法により事業者が実施するもので、保険証の発行元が実施する特定健診とは異なる健診と位置付けられています。 本市国民健康保険では、労働安全衛生法による健診との連携は重要と認識しており、受診結果を提供いただくことで特定健診を受診したとみなす取り組みなどを行い、受診率の向上に努めています。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
3	<p>政策の柱2-2 1(2)</p> <p>P33 グラフの分析 「相談できる近所の人・仲間」に否定的な意見が多かったが、子どもも少なくなり、同じ年代の親子とあえることがむずかしいということの表れだと思う。 仲間作りに関しても、知らない人と、知り合うのが最近の若い人たちはむずかしいのかもしれない。横につながり仕掛けが必要ではないか。 「子ども交流館・子育てリラックス館」について否定的な意見が多かった。 最近では親子で遊びに行ける場所が増えているのに、否定的な意見が上回ったことについて、分析が必要ではないか。 施設側のプログラムがたりないのか、数が足りないのか、職員がよくないのか、遠くていけないのか、知らなくていけないのか、などリサーチした方がよいのではないか。</p>	<p>政策評価シートは、P3に記載した「抽出の考え方」により、市民アンケートの回答から特徴的な項目を抽出し詳細な分析・考察を行っているため、ご指摘の二つの項目については、政策評価シートの分析・考察の対象としておりません。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
4	<p>施策の柱2-2 2(1)</p> <p>P35 子どもルーム 千葉市の待機児童数がダントツに多いことがわかった。 保育所を増やせば増やすほどその先に子どもルームの需要が増すことは簡単に想像できる。 そのバランスがわるかったのかどうか、分析が必要ではないか。 また、子どもルームの環境が劣悪だときている。 新型コロナウイルス感染のこともあいまって、子どもルームの環境整備は最優先課題だと思う。</p>	<p>P35に「将来予測を超える低学年の利用増加や、指導員確保が困難で受入枠の拡大が進まなかったこと」が一因であると考えられると分析しています。 また、施設環境整備の必要性は認識しており、エアコンや手洗い場の整備のほか、クッションフロア設置などの保育環境の改善に取り組んでおります。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
5	<p>施策の柱2-2 2(3)</p> <p>P37 男性の積極的な育児への関わり 図表4で見ると相変わらず、男性の育児に関する数字は上昇しない。 これは、働き方の問題と大きく関わり、ジェンダーの問題でもある。 一挙には進まないと思うが、家庭にいられる時間を増やすことしか近道はないのではないか。 まとまった育児休業よりも、毎日30分早く帰れる仕組みを作って、そこに市からの補助をつけたらどうか。 最近聞くのは「取るだけ育休」。男性が育休をとっても、家で遊んでいるばかりで、女性の不満がたまるだけ、というもの。 育児の過程全てを男性にも知ってほしいとは思いますが、人によっては使いこなせない人もいるとおもう。 時短の勤務を進めてみてはどうか。</p>	<p>男性の育児参加については、ご指摘のように、働き方等を含む幅広い観点から取り組む必要があると考えております。 具体的な取り組みに関するご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
6	<p>施策の柱2-4 1(2)、2(4)</p> <p>P41、P47 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る グラフの中で「仕事・活動の情報」の項目では否定的な数字がダントツに多い。 生涯現役応援センターも始まったのに、効果が無いのか？ センターの周知と内容の充実はずいぶんしてほしい。 医療機関だけあっても、豊かな老後は暮らせない。 病気が寛解しても、食べられない、遊べない、楽しくないくらしなら、長生きしても甲斐がない。 いざずらに、長生きする人生よりも、自分のからだの寿命を素直に受け入れて、苦しむことなく終末を迎える考え方も必要ではないか。 終末期は栄養や水分をとらないことの方が、楽に死を迎えられることを聞いたり読んだりしたことがある。その知識も人間として知っておくべきだと思う。</p>	<p>生涯現役応援センターについて、P47の「市民に十分認知されていない」、「市内各所からのアクセシビリティなどにおいて課題がある」など考察しており、より市民が利用しやすいよう充実が必要であると考えております。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
7	<p>施策の柱2-4 2(2)</p> <p>P44 訪問診療 事業を始める医師が、やりがいと適切な収入を得られる仕組み作りをすすめてほしい。 まだ、一般市民への情報が行き届いていないと感じる。</p>	<p>P44のとおり、訪問診療を含む在宅医療の必要性・重要性の一層の高まりに対応できるよう、医療機関や訪問看護ステーションなどに対する支援の充実が必要と考えており、訪問医師増強研修を実施し、訪問診療を行う医師のスキル向上や事務の研修を通じて、訪問診療を行っている又は行いたい医師に対して支援体制を整えております。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
8	<p>施策の柱2-4 2(3)</p> <p>P45 老人クラブなどの交流活動 いまや、高齢者というくくりで活動する時代ではない。 老人クラブという名称も、加入する気にならないし、いまは、興味のあるジャンルごとに人が集うことが自然。 老人クラブの指標はやめた方がよいと考える。</p>	<p>老人クラブは、地域に住む方々が集まり、各種の活動を行うなかで、健康増進や地域社会との交流を深め、高齢者の日常生活を健全で豊かなものにするにつなげております。 なお、P45に記載した老人クラブのクラブ数及び会員数は客観指標としては設定しておらず、関連情報として記載したものです。引き続き、適切な指標設定に努めてまいります。</p>	—
9	<p>政策の柱2-5 2(3)</p> <p>P57 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る 考察を読んだ感想 大人になってから理解を深めるといっても、感覚的に難しいように思う。 結局、子どもの時から地域の中に障がいのある人もいて、一緒に遊んだり勉強したりすることが、一番障がい者への理解につながるのではないかと考える。 今後は、インクルーシブ教育が進んでいるかの指標を設定することが大事ではないか。</p>	<p>P57「②関連する事業」のとおり、障害者アスリートが市内小・中・養護学校を訪問し講話やパラスポーツ体験学習を行う事業を平成28年度から開始したほか、体育の授業にパラスポーツを取り入れるなど、障害者への理解促進に取り組んでまいりました。 今後もインクルーシブ教育を進めるとともに、いただいたご意見については参考とさせていただきます。</p>	—
10	<p>施策の柱3-1 2(2)</p> <p>P62 考察の下から3行目 「保護者参観では小学生の地元企業への職場訪問体験を目にすることなどから、その変化が保護者や市民に広く認知されず……」 この文章の意味が理解できない。わかるような文章にしてほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「しかし、対象者(学年など)が限定的であること、また保護者がキャリア教育の充実を直接目にする機会が少ないことなどから、その変化が保護者や市民に広く認知されず……」に修正します。</p>	○
11	<p>P63 一番上の「本市では……」3行下にも同じ文章がある。ダブリではないか？</p>	<p>ご指摘を踏まえ、修正します。</p>	○
12	<p>施策の柱3-1 2(5)</p> <p>P66 「不登校率の継続的な上昇が保護者や児童生徒の否定的実感につながっている」 以前からの課題「不登校増加」が全く解消しない。 しかし、色々な不登校の種類があり、角度を変えて取り組む必要がある。 今のようなコロナ禍においては、全員が不登校なので、これを機に、学校に来なくても教育が受けられる機会を確保する政策を打ち出すべき。 学校へ来ないことが問題なのではなく、教育を子どもが受けられないことを問題にすべき。 色々な学びの場を認めて、教育の機会を「0」ではなく少しでも引き上げていくことが、本来の政策だと思う。</p>	<p>不登校児童生徒一人一人の置かれている状況を踏まえた効果的な支援につながるよう、様々な関係機関・専門家との連携をさらに強めながら、ライトポートやフリースクールの充実など、不登校の未然防止や早期対応に引き続き取り組んでまいります。 新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校期間にあたっては、学習動画コンテンツの配信などとともに、子どもたちの心のケアも併せて行っております。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
13	<p>施策の柱3-3 2(2)</p> <p>P89 最後の行「活動している市民、団体のニーズを把握し……必要。」 →まさにその通りだと思う。</p>	<p>評価結果を踏まえ、取り組みを進めてまいります。</p>	—

番号	意見の概要	市の考え方	案の修正
14	<p>施策の柱3-5 2市民参画(1)</p> <p>P98 市民の力をまちづくりの力へ (ウ)考察 の中に足りないところ 千葉市は広いので、市民活動をするにあたって、近くに相談にいけるところがない。 顔の見える関係で、日頃から寄り添って応援してくれる職員がいると、活動の励みになる。 今後は、各区に市民活動の相談ができる部署をおき、活動支援の専門員をおく(民間委託でもいいので)ことを考えてほしい。いまは、地域振興課やボランティアセンターが該当箇所になると思うが、市民から見れば機能が不十分だと思う。公民館職員も本来はその役割を果たすべきだと思うが、そうっていない。 ちなみに四街道は市が小さくて、区の単位より人口が少ないので、市民活動に関係する職員との距離が近く、寄り添った活動ができているように感じる。 他市にできて千葉市にできないことは無いと思うので、考えてほしい。</p>	<p>P98考察のとおり、公益的活動に関心がありながら参加しなかった市民が過半数を占めており、その理由として「時間がない」「きっかけがない」「どのように参加してよいかわからない」が挙がっていることから、こうした市民に対する働きかけが必要であると考えております。 また、市民活動の支援について、本市では、千葉市民活動支援センターにおいて、市民公益活動に関する情報提供や随時個別相談の受付等、市民活動団体のサポートを行っています。また、区役所では地域担当職員を配置し、地域運営委員会の設立や運営のお手伝い等をおして地域との間に顔の見える関係を築けるよう取り組んでおります。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
15	<p>施策の柱3-5 2男女共同参画(1)</p> <p>P99 男女共同参画 (ウ)考察 「女性会長比率が女性役員比率に比べ低いのは、・・・会長の役割の大きさなどが影響している可能性がある」という見方はある程度そうかもしれないが、根本的に、教育の問題、社会経験の問題かとおもう。 リーダーシップを取れるような教育を受けていない。組織運営の経験が無いなど、女性の人生の中での教育の不足、経験不足が、自信のなさにつながり、引き受けたいと思わない、自信が無い、お願いもされない、ということになるのだと思う。 小学生の頃は、女子の方が活発だったりするが、年齢が上がると、補助的な役回りになってしまう日本の社会的な特徴が遠因になっていると思う。 公民館などでの社会教育も充実させて、女性に限らず、組織運営の力を持てる人を育てることが大切だと思う。</p>	<p>千葉市男女共同参画ハーモニー条例に掲げる「男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう」社会を築くことは非常に重要であると考えております。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
16	<p>施策の柱3-5 2男女共同参画(1)</p> <p>P101 女性が結婚や育児で退職しても再就職できる環境 (ウ)考察 のところには、現状分析はあるが、もう少し対策にも言及してほしい。 女性委員の割合向上のためには、市の職員が、色々な企業や団体とのつながりをもって、人材を発掘する必要があると思う。</p>	<p>政策評価は、指標等に基づく分析・考察を通じ、行政課題を抽出することを目的としております。 なお、市の附属機関の女性委員選任については、関係機関と協力して委員の推薦にあたるなど、女性委員登用の促進に向けて取り組んでおります。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
17	<p>施策の柱3-5 2男女共同参画(2)</p> <p>P103 男性が育児休業を取得できる (ウ)考察 「育児等に対する理解が社会全般の共通認識として浸透するには至っておらず」はその通りだと思う。 育児や家事について抱くイメージは男性の持つものと実生活とのギャップがある。たとえば洗濯機や、掃除機の普及で、生活が便利になっても、その間を埋める隙間仕事は山のようにあり、それこそが家事育児なのであって、それは実際にやってみないとわからない。</p>	<p>評価結果を踏まえ、取組みを進めてまいります。 なお、事前にレクチャーを受けられる制度として、P102に記載したプレパパママ講座、パパスクールなどを実施しておりますが、一部の事業では認知度が低い状況にあります。 いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
18	<p>施策の柱5-1 2(2)</p> <p>P138 交通の便 (ウ)考察 稲毛区若葉区の交通の便への否定的な意見が多いにも関わらず、考察がない。便利なところは放っておいてもいいが、不便を感じる地域こそ、課題として上げておくべきではないか。</p>	<p>海浜幕張駅への交通の便については、京葉線へのアクセス性が影響していると考えており、P138(ア)市民アンケート結果及びP139(ウ)考察にその旨を記載しております。</p>	—
19	<p>施策の柱5-1 2(3)</p> <p>P141 魅力的な飲食店 (ウ)考察 蘇我地区のことしか言及がないが、魅力的な飲食店は、市内各地域にほしいもの。 特に若葉区からは、蘇我には交通の便が悪いので利用することはほとんどない。 身近な地域の商業地域の活性化の方が大事だと思う。</p>	<p>生活実感指標「市内に魅力的なまちがあると感じる割合」は、千葉駅、海浜幕張駅、蘇我駅周辺エリアを中心に魅力の有無とその理由を伺ったもので、ご指摘の箇所は、蘇我駅周辺エリアに関する特徴的な項目について分析・考察を行ったものとなります。 なお、地域経済の活性化については、P144からの「5-2 地域経済を活性化」において分析・考察を行っております。</p>	—
20	<p>施策の柱5-1 2(4)</p> <p>P143 魅力的な文化・芸術施設 ③その他の状況 文化施設の概要の表中に、生涯学習センターのホールが入っていないがなぜか？ (ウ)考察 「施設量的に充足してる千葉都心の各施設においてはソフト面の充実や認知度を図る必要がある」とあるが、まさにその通りだと思う。 特に、郷土博物館は、お城の形だけはアピールできるが、中身の充実を持って図ってほしい。博物館という名にふさわしい施設になってほしい。</p>	<p>ご指摘の図表10は文化施設を記載したものであり、生涯学習センターは生涯学習施設として位置づけているため、同図表には記載しておりません。 なお、同センターについては、P75で分析・考察を行っております。 評価結果を踏まえ取組みを進めるとともに、いただいたご意見については、今後の事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—
21	<p>施策の柱5-3 2(2)</p> <p>P154 いずみグリーンビレッジ 「若葉区では認知度が高いがその他の区では低い」というのは本当だと思う。 若葉区以外の区から日帰り観光バスを出したらどうか。 若葉区民としては、里山を味わって貰うにはとてもいいところなのでぜひ来てほしいとおもっている。 下田農業ふれあい館のレストランは、地元で任せているだけでは魅力が増えない。外から、企画力のある人材を入れないと、活用仕切れずもったいない。他県・市の農家レストランの成功例をもっと学ぶ必要がある。 他の方法としては、さとお耕園に隣接したところに、農家レストランを新しくつくった方がいいと思う。 下田はバイキングではなく、軽食や喫茶のしゃれたカフェに変えた方がいいとおもう。 地方にいけばいくらでもしゃれたカフェがあるのに、若葉区はほとんど無いので。</p>	<p>評価結果を踏まえ、各施設の魅力を積極的にPRするとともに、乳牛育成牧場跡地の観光拠点化による新たなコンテンツの創出や、当該観光拠点と周辺施設との連携を強化するなどにより、認知度の向上に努めてまいります。 いただいたご意見については、事業実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	—